

第 23 回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開 催 日	令和 7 年 1 月 21 日（火）			
開 催 時 間	開 会	午前 1 0 時 0 0 分	閉 会	午前 1 1 時 3 0 分
開 催 場 所	市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市議会 白鳥 敏明 伊那地区区長会 守屋 明 高遠町地区区長会 小松 浩明 長谷地区区長会 中山 幾雄 上伊那農業協同組合 田中 悟 上伊那森林組合 富山 裕一（審議会会長） 伊那商工会議所 向山 賢悟（審議会副会長） 長野県経営者協会 上伊那支部 南部 高幸 交通事業者 藤澤 宏正 連合長野上伊那地域協議会 野中 淳平 伊那市社会福祉協議会 小池 浩史 伊那市教育委員会 北原 秀樹 伊那市保育園保護者会連合会 山口 涼太 伊那市女性人材バンク 金丸 恵美子			
欠席者	伊那青年会議所 伊藤 越百 伊那市金融団 根橋 章一 伊那市観光協会 向山 知希 中部 P T A 連合会 伊藤 剛志郎 信州大学 酒井 俊郎 公募 鈴木 孝之			
委員以外の出席者	アドバイザー（上伊那地域振興局企画振興課） 中谷 俊禎			
出席した事務局職員等	企画部長 飯島 智 企画部地域創造課長 田中 久 企画部地域創造課移住定住促進係長 田中 稔 企画部地域創造課移住定住促進係 田尻 勇木 企画部地域創造課移住定住促進係 青樹 万由子 企画部地域創造課移住定住促進係 伊藤 汐里			
議 事	（１） 地方創生総合戦略の改訂について （２） その他			

配布資料	資料 1 第 3 期伊那市地方創生総合戦略（素々案（R7.1.21）） 資料 2 第 22 回伊那市地方創生総合戦略審議会 検討事項 資料 3 第 3 期伊那市地方創生総合戦略 重要業績評価指標（KPI）（案）
------	---

1 開 会

2 会長（富山裕一氏）あいさつ

前回、委員の皆様からいただいた意見を反映した資料が今回配布されている。総合戦略を 3 月までに策定するタイトなスケジュールの中、今後の会議回数も限られているが、引き続き伊那市のために活発な意見をいただき、良い審議会にしていきたい。

3 会議事項（進行：富山会長）

（1）地方創生総合戦略の改定について

会 長：事務局から説明をお願いする。

事務局：（資料 1、資料 2、資料 3 により説明）

会 長：説明内容について、意見、質問等はあるか。

委 員：基本目標①から③とリーディング・プロジェクトの関連性について説明いただきたい。

事務局：資料 3 に記載の各事業及び KPI を積み上げていく中で、最終的に基本的視点に繋がっていく形となっている。総合戦略の中にすべての事業を掲載することは難しいため、主な事業をリーディング・プロジェクトとして掲載し、基本目標、基本的視点に繋がっている。

委 員：資料 1（p.11）の基本目標①は基本目標の中の文章とリーディング・プロジェクトが繋がっているが、基本目標②及び③は繋がりが読み取りづらい。基本目標の中の文章とリーディング・プロジェクトの繋がりを分かりやすくするように検討いただきたい。

委 員：資料 1（p.3）本文中の「産学官金労言」のうち、「金労言」は何を指すのか。

事務局：「金」は金融界、「労」は労働界、「言」は言論界（マスコミ、メディア）を指し、多様な主体という意味で使われている。分かりづらい部分もあるため、注記などで補足していきたい。

委 員：資料 1（p.21）において、重要行政評価指標（KPI）としてやまぶどうとブルーベリーの生産面積に関する記載があるが、伊那市はアスパラガスやアルストロメリア、トルコギキョウ等の花きの栽培も盛んである。このような特産品についても事業や KPI に取り入れるべきではないか。

事務局：アスパラガスや花きは伊那市が力を入れているものでもある。総合戦略に全事業を掲載することは難しいが、庁内でも再度協議し、事業の内容等に

掲載していきたい。

委員：KPI については各部署との整合性を取った上で修正をお願いするとともに、アスパラガスや花きに関する記述も追加いただきたい。

資料 1 (p.18) に記載の地産地消・有機食材を導入した自校・自園給食は非常に重要であると考え。地域の中での流通が大事になってくるため、海外からの輸出品を食べて、地元のものは外に出ていくということが無いよう、積極的に取り組んでいただきたい。

また、学校登山について、県全域として減少傾向にあると認識している。KPI では現状維持で継続して実施していくこととなっているが、今後の取り組みがどのような形で進められていくのか。

事務局：該当頁の KPI が偏ったもののみになってしまっているが、他頁等では有機農業や食育に関する KPI を掲載している部分もある。修正する中で、KPI を掲載する箇所なども今後見直していく。学校登山の取り組みについては担当課に確認の上、回答する。

委員：資料 3 の事業内容及び KPI について、前回からの継続項目と新規追加項目が分かるように記載いただきたい。また、事業や支援の内容が市民に伝わりやすい方法を考える必要がある。LINE や AI を上手く活用する、フリーペーパーに掲載するなど、方法を検討いただきたい。

事務局：継続と新規の区分について追記する。また、市民への発信は、市でも公式 LINE を運用していることに加え、フリーペーパーなども活用し、市民の皆様への周知に努めていきたい。

委員：資料 1 (p.30) において、大規模災害に備えることは非常に重要であるが、大規模災害となると、市だけでなく、広域的な対応が必要となる。社会福祉協議会でも市の危機管理課、郡内の市町村、社会福祉協議会と協働しながら広域的な支援、ネットワークづくりを進めている。広域的な視点も考えながら計画を進めていただきたい。

委員：資料 1 (p.27、28) において、リーディング・プロジェクトでは自治会の担い手不足についての記載があるが、事業の内容及び KPI にはその対策の記載が見受けられない。自治会の担い手不足が非常に厳しい状況になっており、毎年、後継者探しに苦労している。原因の一つに仕事の雇用延長の影響で、60 歳を過ぎても仕事が忙しいために自治会の役員を引き受けられないということがある。一方で、自治会の業務が生きがい、地域との繋がりになることもある。企業側でも 60 歳を過ぎ、仕事が多少でも楽になった方に対しては配慮いただきたいと感じる。

事務局：自治会の持続的な運営は大きな課題と捉えている。このような視点も踏まえて進めていきたい。また、市でも自治会の負担軽減について検討を始め

ており、自治会の皆様にもご意見をいただきたい。

委員：資料 1 (p.2、p.11 等) において、口語的表現が連続している個所が見受けられる。文章を読む際に違和感があるため、全体的に文章の表現を再度確認いただきたい。

また、女性が活躍できる社会という表現があるが、本審議会でも女性が非常に少ない。女性が活躍できる、意見を言えることに対してどのような活動がなされているのか。特に、結婚、出産、妊娠という言葉に対して女性がどのように思っているのか。モノやお金を与えただけで安心して妊娠、出産、子育てができるのか。こういった点でも女性の意見をもっと聞くべきだと感じる。

子育てが楽しいと感じられるように、社会全体で子育てを支え合うという言葉はきれいな言葉だが、その社会全体とはどのような意味を指すのか。子育てをしていく中で、地域の人たちが見守ってくれていることが安心感に繋がる。また、出産する人だけでなく、子どもがいない人や社会のために役に立ちたいと考える人もいる。そういった多様な人たちが力を合わせて地域の子どもたちを育てるという考え方になっていかないと親は安心して子育てができない。社会全体という言葉ではなく、地域の強さ、協働して育てるというような、一人ひとりが自分事として考えられる表現にしていきたい。

子どもを育てるためには家族の無償の愛が大事である。一方で、子どもたちへの声掛けなど、その他の人の愛情が子どもを育てるのだとも感じる。伊那市に帰ってきたい、伊那市で子どもを育てたいと思ってもらうためには、子どものうちに、心のふるさとを養ってあげる必要がある。子育て支援の充実として、人を大切にしたい、子どもや親の心を育てたいというような市民の声を反映していただきたい。

事務局：市でも様々な場で女性の参画を促してはいるが、なかなか実現できていないのが現状である。本審議会でも、できる限り女性が参画いただけるよう環境を整えていきたい。

文章の表現は、全体的に確認し、修正していく。

子どもや子育てに関する意見については、社会全体ではなく、地域というより身近な場で一緒に子どもたちを育てていくことを表現として取り入れていきたい。

委員：総合戦略は市の総合計画や国、県の総合戦略を踏まえながら、地方創生を進めていくこととなる中で、今後、県の信州未来共創戦略などとも整合性を取っていく必要がある。職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度や奨学金に関する県との併用制度、二地域居住への注力などについても検討、

追記すると総合戦略に厚みが出るのではないかと感じる。総合戦略は市の発展のためにという視点ではあるが、広域的な連携、整合性を取ることでシナジー効果が出るものについては、取り入れる内容もあるのではないか。また、リーディング・プロジェクトに関しても、ターゲットをもう少し明確にすることで、より市民に伝わるのではないか。そういった視点でも検討いただきたい。

委員：令和７年度から市の組織として子ども部が創設される。具体的にどのような体制となるのか。

事務局：具体的な組織体制については、細かな内容となることから、次回の審議会で提示させていただく。

会長：本日アドバイザーとしてご出席いただいている上伊那地域振興局企画振興課長の中谷俊禎氏にご助言等いただきたい。

中谷氏：昨年１２月に県で信州未来共創戦略を策定し、官民一体となった取り組みを進めていく。昨年７月に若い世代を中心とした人口減少に関する意見交換会を開催した。その中で、ものづくりが盛んであることから理系の女性を増やそうという意見が挙がった。本審議会でも女性に関する様々な意見が挙がり、今後、参考にしていきたい。県でも伊那市の総合戦略、審議会の中で新たな気づきに関して研究していく中で、一緒に取り組んでいけるものを模索していきたい。

４ その他 特になし

５ 閉 会